団体名：白州道の駅利用組合
代表者：組合長　植松一雄
所在地：山梨県北杜市白州町

〔ポイント〕
平成１３年３月の「道の駅はくしゅう」のオープンに先立ち平成１２年１月、北杜市白州町に住み農林産物等を生産・加工している生産者２８０名で「白州道の駅利用組合」を設立し、道の駅への周年出荷を目指した出荷体制を推進。

【活動の内容】

１．地産地消を活かした産地づくり

名水を活かした「白州米」「椎茸」「ほうれんそう」「セリ」「りんご」「長いも」等を白州地区の特産品として、地産地消がモットーに、地元を販売するために品目の拡大・推進。

特に冬場の品薄解消に努めるために「かき菜」を実験的に導入。

２．観光施設、地域内レストラン等への地場農産物の利用促進

道の駅はくしゅう内のレストラン「おじら」では、地産地消を心がけ、白州産の農産物を積極的に取り入れた白州独自のメニューづくりに取り組む。

特に、夏野菜を使ったカレー、地粉を使用した「うどん」は、新鮮で安心・安全な農産物を使っており、自慢メニューである。

３．地場農産物の生産・加工技術等の伝承・普及を通じた地　産地消に取組む人材の養成（地域特産物マイスター等）

白州になかった「さつまいも」や、新品種の「じゃがいも」などを、グループで栽培し、肥料や消毒、栽培技術など情報交換しながら取り組む。

その成果として、「さつまいも」は加工して「切り干し」で、新品種の「じゃがいも」は、シチューに適した「ジャガイモ」として店頭へ並べ、新しい農産物として売り上げの増加につながっている。栽培記録等は、広く組合員に普及させている。

また、減農薬・減化学肥料の取り組みを実施。さらに、道の駅はくしゅうに隣接する農産物加工施設で、「10 割そば」、「味おこわ」、「つきたて餅」を出品。

４．地産地消の情報提供

農産物には、生産者の名前・電話番号・調理方法・有機　栽培等の表示し、消費者が農産物の出所が明確化を知って、安心して購入している。

【活動の成果】

組合設立から６年が経過し、心配されていた冬場の農産物の供給不足も「かき菜」「さつまいも」など新たな作物づくりへの取り組みから解消されつつある。　また、年々生産量及び出品数が伸びていることから、生産者の収入増となっている。

また、「道の駅はくしゅう」に年々来場者が増加している理由として、地産地消の新鮮な農産物を求めて訪れることが上げられる。

観光土産品を置いていないところに特色があり、地域の農産物等で売り場が占められていることが、大変喜ばれている。安価で、安心・安全な農産物は消費者が求めているニーズであり、休日などは午後の早い時間に商品がなくなるほどの盛況である。

これらのことは一重に、組合員一人ひとりの努力と積み重ねの結果であり、消費者に喜ばれることが生産者の生産意欲の増進につながり、良い相乗効果を上げている。